

～赤十字電子医学資料「コンソーシアム」に参加して～

## 赤十字コンソーシアムに参加して

中 辻 きみ子

当院図書室がコンソーシアムに参加するようになったいきさつには、主に二つの要素が考えられます。まず一つは経済性、年々高騰していく洋雑誌に対して病院収入から考えると、図書の購入を少なくとも前年度並に抑える事が求められていました。二つ目は利便性で、インターネットを利用できる環境が病院として整い、一部の先生方が病院で購入する洋雑誌の冊子に附属し、無料で見る事ができるweb版を利用され、医局内でその良さが宣えられていた地盤がすでにあったことです。

こういった過程から、コンソーシアムへの参加は図書委員会でも時代の流れと捉えられ、また院長 連盟会議からの経過であったこともあり、導入が進められました。

まずMD Cosultのなかに当院が冊子で購入していた洋雑誌が意外と多く含まれていたことから、その雑誌の対照となる診療科の部長先生に、図書委員会の方向性を説明し、その冊子の購入をやめてweb版のみにしてもよいか、科として取りまとめていただきました。これに関しては、予想外に了解が得られ、むしろカラープリンターが図書室にすでにあった事から、きれいな資料が手に入ると喜ばれる先生もおられました。

次にLWW10誌についても初年度は冊子の購入が、前年度の維持を前提でのお試し価格

でしたので、問題はいくつかありましたが、予算的にも前年度並に落ち着いたこともあって、次の年を期待しての導入となりました。この洋雑誌をよく読まれていた先生方に、一年後に問題点をお聞きしたところ、web版を利用して冊子をほとんど見なかったという意見が多く、継続しての購入を求められました。

インターネットを利用できるパソコンは図書室に2台、医局に2台でしたが、昨年度は新たに図書室に6台追加され、ますます環境が整う事となり、今年度はJBJS、AMA、LWW10誌、MD Cosultを導入しています。LWW10誌は価格が3倍になりましたが、冊子購入維持もなくweb版のみとなって、経費をはほぼ例年並に維持しています。

個々の病院の特殊性や、経済、環境等の違いもあって、何処も同じにはできませんが、病院毎に、形や種類を変えてコンソーシアムに参加し、進化していくことになればと、今後に期待しています。

個人的には能力の問題が大きいのですが、複雑な契約手続き、英語へのアレルギーがストレスになっています。来年は無理でも、その次には本社サイドでの購入で、ベッド数、医師数なりの分担をしていただければと思います。

洋雑誌の購入をやめてしまって、不満の声をもっと聞くと感じていたにもかかわらず、少ないのには喜んでいいのか、関心がないのか、図書室担当者としては複雑な気持ちです。導入を決めたとき、賛成してくださっ

NAKATSUJI Kimiko

長浜赤十字病院 図書室

tosho@nagahama.jrc.or.jp

た先生が、時間のある時に図書室に立ち寄り、冊子を手にできなくなるのか…とつぶやかれたことが、2年を経過しても頭の片隅に残っています。その先生も日々、前にも増して忙しくされ、時間の無いのは明らかで、昨今のメディアを騒がす医療現場の医師不足を図書室でも感じています。雑誌を手に図書室のソファーに座り、すぐ寝息をたてられる研修医

の先生の姿に、なにかお手伝いできる事があればと、また医療ミスにつながらない様に十分睡眠をお取りくださいと、親心に似て祈るような気持ちになって見えています。

赤十字コンソーシアムに参加しての現状を報告しましたが、参考になるかどうかは疑問です。お尋ねになりたい事があれば直接当図書室にご連絡ください。